



神納中だより

神納中学校第91号

平成22年10月19日発行

私たちが遠い過去に忘れてきた感情（全校朝会の講話10月）

校長 浪花 健一

私には皆さんと同じくらいの年齢の息子がいます。その子がまだ1歳半に満たない頃、まだ小さな赤ん坊であったときのことです。

夕方、家の近く、あたりが薄暗くなってきた小路を、私たち夫婦は息子連れで歩いていました。新潟祭りの2日目で、これから信濃川の畔で行われる恒例の花火大会に行こうとしていたときのことでした。

まだ幼かった私の息子は、妻にだっこされて上機嫌、私に向かってにこにこしながら「ばぶ、ばぶ」と何か言っていました、と言うのも私は妻の後ろを歩いていたので、彼女にだっこされていた息子のまん丸の赤ちゃん顔は、妻の肩越しに、しっかりと私の方に向けて現れていたからです。

まん丸の赤ちゃん顔がこちらを見ているので、私もおどけた顔をして息子をもっと笑わせたくになります。両唇をとんがらせ、眉をぐっと上にあげて面白い顔をしたりします。息子は、私がおかしなことをやり始めたので、すっかり真顔になってしまい、だまって見ていましたが、やがて、その歳にしてはやや大人っぽい笑いをニンマリと返してきました。あたかも、あなたがやっていることは面白くないけれど、私にやろうとしていることは十分に評価できる、と言わんばかりに・・・。

それでも滑稽な親子のコミュニケーションは続きました。その時、それまで私の方に一心に視線を向けていた息子の両目が、突然、鋭く上に動きました。私から屋根の方へ、いやもっと高い所を見つめ始めました。何をみつけたのか。次の瞬間、彼の穏やかな表情はすーっと消え失せ、不安そうに上をじっと見つめたまま、母親の肩から片手を離し、緊張した面持ちでまっすぐにそのものを指さしました。「あ～、あ～」と言いながら、しきりに私にもそのものを見るように訴えています。いったいどうしたのか。何を見て驚いているのか。私もすぐに振り返り、息子が指で指し示す方を見上げました。

そこには夜空に美しく輝く、まん丸のお月様が浮かんでいました。

息子の「異変」に気がついた妻も後ろを振り返り、共に夜空を見上げながら「あれはね、お月様だよ。だから怖くないの。綺麗だねえー」と言いました。息子にとってお月様ときちんと向き合うのは今回が初めての経験だったんだ、と思った私は、あらためて夜空に浮かぶ月を見つめ直し、私が遠い遠い過去に置き忘れてきた感情を、再び、思い起こすような懐かしい気持ちになりました。

私たち大人にしてみれば、月はあまりにも身近な天体であり、珍しくも何ともない存在になっています。しかし、生まれて初めて正面切ってお月様と向かい合った息子にとっては、不可思議であり、また驚くべき存在だったのです。その驚きは恐怖心に近いものであったことは、その時の彼の慌てようで容易に想像することができます。「うわーっ、なっ、何なんだ！ あの、暗い空にぽっかりと浮かんでいる黄色くてまん丸いものは！」と、全身全霊、お月様に圧倒されていたに違いありません。

私は今回の一件で、赤ん坊の心の真っ白さに深く感動すると同時に、赤ん坊のような無垢な心をほぼ完全に失ってしまった自分自身の存在を強く意識せざるを得ませんでした。大自然の美しさを素直に感じ、また、その不思議さに素直に驚き、時として恐れおののく。大自然に対する畏敬の念を形成する根源的な感情であると思います。



当時、2歳に満たなかった私の息子にとって、母親にだっこされながら、屋根と屋根の間の狭い夜空に見たお月様こそが、大自然との本格的な出会いだったのです。

私は、今年で53歳になりました。今ではすっかり古くなってしまった私の心の片隅にも、赤ん坊のような真っ白な部分を残しておきたいと思っています。皆さんも自分の心の中に真っ白な部分を残しておいてください。

全 校 一 斉 環 境 整 備 の 日 (9 / 2 9)

今日の6限に当たる時間に、全校生徒による校地内の環境美化活動が行われました。すでにご存じの通り、当校では郷育会議の活動の一環として、2年前から「花いっぱい運動」が行われています。校地内にはアジサイ、ラベンダー、ひまわり等の花々が、四季を通じて美しい花を咲かせています。

これは地域の方々や保護者の皆様の全面的なご協力を得て、当校職員の山崎技能員を中心に維持、管理、植栽等を行っていたわけですが、今後は「環境整備の日」という日を教育課程の中に正式に位置づけ、春から秋にかけて年間を通して全校体制で計画的・継続的に実施していきたいと考えております。



〈全校生徒集合！〉



〈植栽のための花壇づくり〉



〈この花壇はアジサイのために〉

村 上 養 護 学 校 中 学 部 と の 交 流 会 (3 組) 9 / 3 0 (木)

この日、村上養護学校の中学部との交流会がありました。当校からの発表内容は紙芝居「おだんご、ころころ」です。3人のメンバーで何度も何度も練習を重ね、マラカスやリコーダーを使った効果音も採り入れて、りっぱな発表ができました。

人に分かりやすく読んで聞かせたり、説明したりすることは、大人でも難しいことです。繰り返し練習することで、自分自身の技に磨きをかけ、発表力の向上に資することができます。磯部さん、佐藤さん、近藤さん、すばらしい発表をありがとうございました。今回の貴重な学習体験を今後の学校生活に活かしてほしいです。



性 に 関 す る 教 育 (9 / 2 7 、 9 / 3 0)

性に関する年間指導計画にしたがって、学級担任と養護教諭がチームを組んで、2年生を対象に性に関する指導を実施しました。脳の働きによって欲求のコントロールや正しい行動選択が可能になるというお話や相手の気持ちを考え、思いやりをもって行動することの大切さを学びました。

授業は、先生方の説明を生徒が真剣に聞くところから始まり、自分自身の考えを文章に書いて

まとめたり、グループで生徒同士が話し合ったり、話し合ったことを発表したりする場面から成り立っていました。客観的なデータに基づいた分かりやすい授業であったと思います。今後、生徒へのアンケート調査などを通して、意識や行動の変容を見守っていきたいと考えています。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



〈養護教諭 本間先生のお話〉

〈グループでの話し合い〉

〈男女の意識の違いについて〉

第17回郡市中学校音楽総合発表会 村上市ふれあいセンター 10月3日(日)

この日、村上市ふれあいセンターで、第46回郡市吹奏楽発表会が行われました。郡市内の12カ校の吹奏楽部が、晴れの舞台上で日ごろの練習の成果を披露しました。

当校の吹奏楽部は、3年生5人、2年生10人、1年生8人で総勢23名からなる部活動です。演奏曲目は「シンクロBom-Ba-Ye」と「鷲の舞うところ」の2曲でした。夏休み中から猛暑の中、ほぼ毎日のように熱心に練習した成果が、十分に現れたすばらしい演奏であったと思います。

この発表会には、村上高等学校の吹奏楽部の皆さんも参加しておられ、さすがは高校生！中学生の部員にとってはお手本となるような自信に満ちた演奏が行われました。

当日、会場は写真撮影が禁止されていたため、演奏の様子を伝える写真を掲載することができません。ここでは夏休み中の練習風景の写真を掲載することに致しました。ご了承ください。



学力向上推進システム活用計画の実施について

すでに7月24日(土)の新聞でも紹介されましたが、県教育委員会では9月から「学力向上推進システム活用事業」を実施しています。このシステムでは県教育委員会が作成し、各校に配信した診断問題(国・数・英)を実施することになっています。その結果を県に報告いたしますが、県は実施結果に基づいて、新たにサポート問題を作成し、再び配信します。各校では学習内容の確かな定着のためにサポート問題を実施するというサイクルです。

当校では、もともと学力向上のために、朝学習と連動した基礎学力テストを、計画的・継続的に実施してきましたが、今回の県教育委員会による「学力向上推進システム活用事業」も積極的に導入することにいたしました。教務部と研究推進委員会が連携協力して「学力向上推進システム活用計画」を立案いたしました。具体的な内容については、当校ホームページ上の「学習活動」をご覧ください。幸いです。

以下にその手順と内容を簡潔にお示しいたします。



深めよう 絆 県民運動 スタート

ストップ・ザ・いじめ
～やめよういじめ 許さないじめ～